

審査の結果の要旨

氏名 趙衛国

本論文は、中国系ニューカマー高校生（高校中退者を含む）が日本の学校文化および地域社会に適応（あるいは不適応）していく過程をエスノグラフィーを通して叙述し、文化一歴史的活動理論の枠組みから越境による文化的アイデンティティの形成と変容の様相と要因を分析考察したものである。

第1部第1章ではニューカマー高校生の受け入れ段階および中途退学者の現状と問題を示し、第2章では異文化接触ならびにニューカマー児童・生徒に関する先行研究の知見と課題を整理し、文化的活動システム間移行における矛盾や葛藤による文化的アイデンティティ変容という分析枠組みを提示し、第3章では本論文の構成と研究方法を述べている。

第2部では中国系ニューカマー高校生の学校適応と教師の見方を取り上げ、第4章では学校好適応・不適応2名の対照生徒事例をもとに、矛盾の解消と拡大への関与要因間の関連が描出され、第5章では日本語取り出し授業担当教師5名の視点と指導を教師用RCRTと参与観察を通して検討し、教師間での指導の相違と葛藤を明らかにしている。

続く第3部においては、高校卒業後あるいは高校中途退学後の時期を含めた文化的アイデンティティの形成変容過程を問い、第6章では卒業生10名を下位集団に分けその集団間でのアイデンティティ形成・変容の相違を分析記述し、第7章では高校中途退学者9名への半構造化面接により、退学者が中国から日本へ、日本の学校から社会へと2度の異文化適応過程に対峙する様相とアイデンティティ変容に関わる要因を明らかにしている。

そして第4部第8章総合的考察では、上記4つの実証研究から、文化間移行が中国的行動様式や価値観の部分的否定と日本的文化様式の習得途上にもたらされるダブルバインド状況での内面的矛盾から、アイデンティティの変容を生じさせていくダイナミズムの様相と要因を概括し考察している。

本論文は、中国系ニューカマー高校生の学校適応を心理学的に解明した実証論文である。ニューカマー生徒下位集団内での適応分化過程を3年半の長期参与観察研究により文化一歴史活動理論の枠組から解明した点、高校卒業後あるいは高校中途退学後までの時期を射程に入れ青年期の文化的アイデンティティの形成変容のダイナミズムを叙述した点できわめて独自性が高い学術論文であり、中国人留学生である著者が中国語で面接収集しなければ記述解明できなかった希少データにより、ニューカマー高校生の学校適応研究および文化的アイデンティティ形成研究に新たな視座を提示した論文であると評価された。

以上のように、本研究はニューカマー高校生の異文化適応に関する実証的研究として評価されるだけでなく、越境によるアイデンティティ変容と学校文化適応を分析する新たな方法を提示した点でも意義が認められる。よって、本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しい水準にあるものと判断された。